

大学番号：私110

注3

認可

[平成25年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

創価大学 看護学部

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人創価大学
平成28年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 看護学部事務室

職名・氏名 事務長・竹 田 文 久

電話番号 042-691-9495

（夜間） 090-6195-1639

F A X 042-691-8506

e-mail kango@soka.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学新設の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成28年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学部

<看護学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	18
6. 留意事項等に対する履行状況等	35
7. その他全般的事項	36

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人創価大学

(2) 大学名

創価大学

(3) 大学の位置

〒192-8577

東京都八王子市丹木町一丁目236番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タシロ ヤスノリ) 田代 康則 (平成16年4月)		
学長	(ヤマモト ヒデオ) 山本 英夫 (平成19年4月)	(ババ ヨシヒサ) 馬場 善久 (平成25年4月)	任期満了に伴う変更、平成25年4月1日(25)
学部長	(ナカイズミ アキヒコ) 中泉 明彦 (平成25年4月)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成26年度に報告済の内容 → (26)
平成28年度に報告する内容 → (28)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 - ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 - ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成25年度開設の4年制の学科の場合(平成28年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) -① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
看護学部 看護学科 学士(看護学)	4年	80人	0人 年次人	320人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	80人 () []	—人 () []	80人 () []	—人 () []	80人 () []	—人 () []	80人 () []	—人 () []	1.05 倍	平成27年度の報告に誤りがありました(28)
志願者数	276 () []	— () []	450 () []	— () []	529 () []	— () []	502 () []	— () []		
受験者数	268 () []	— () []	445 () []	— () []	525 () []	— () []	493 () []	— () []		
合格者数	99 () []	— () []	141 () []	— () []	158 () []	— () []	137 () []	— () []		
B 入学者数	83 () []	— () []	82 () []	— () []	92 () []	— () []	83 () []	— () []		
入学定員超過率 B/A	1.03		1.02		1.15		1.03			

- (注) ・ 数字は, 平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで**記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。

なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] (-) 83	[-] (-) —	[1] (-) 82	[-] (-) —	[-] (-) 92	[-] (-) —	[-] (-) 83	[-] (-) —	
2年次	/		[-] (-) 83	[-] (-) —	[1] (-) 81	[-] (-) —	[-] () 92	[-] (-) —	
3年次			/		/		[-] (-) 83	[-] (-) —	[1] (-) 79
4年次	/						/		/
計			[-] (-) 83	[1] (-) 165	[1] (-) 256	[1] (-) 337			

- (注) ・ 数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成25年度 入学者	83 人	0 人	平成25年度	人	人		0 %
			平成26年度	人	人		
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
平成26年度 入学者	82 人	3 人	平成26年度	1 人	人	死亡(1人)	3.7 %
			平成27年度	2 人	人	学生個人の心身に関する事情(1人) 他の教育機関への入学(1人)	
			平成28年度	人	人		
平成27年度 入学者	92 人	0 人	平成27年度	人	人		0 %
			平成28年度	人	人		
平成28年度 入学者	83 人	0 人	平成28年度	人	人		0 %
合 計	340 人	3 人					0.9 %

(注)・数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成28年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	人間教育論	1前・後		2								スーパーグローバル大学創成支援事業により英語クラスを増設したため兼任教員を追加(27) ①教育課程の充実のため、同科目の開講数を増やしたため、兼任教員を追加。(27) ②准教授から教授へ職位の変更(28) 担当 佐々木諭(教授) 平成28年1月 教員審査済 判定 可 ③教育課程の充実のため、同科目の開講数を増やしたため、兼任教員を追加。(28)
	現代文明論 大学論	1前 1後		2 2								
	共通基礎演習	1前・後		2		1	0	1				
言語科目	英語A I	1前		2								兼 2
	英語A II	1後		2								兼 2
	英語B I	1前		1								兼 3
	英語B II	1後		1								兼 3
	英語C	1・2前・後		1								兼 2
	English Communication Elementary I	1前		1								兼 2 3 所属変更に伴う担当辞退、担当者変更があり、兼2に変更(28)
	English Communication Elementary II	1後		1								兼 2 3 所属変更に伴う担当辞退、担当者変更があり、兼2に変更(28)
	Test Preparation Intermediate TOEIC I	1・2前		1								兼 3 4 履修者増加により授業開講数を増やし兼3に変更(26)
	Test Preparation Intermediate TOEIC II	1・2後		1								兼 3 4 履修者増加により授業開講数を増やし兼3に変更(26)
	Professional English Intermediate I	1・2前		2								兼 1
Professional English Intermediate II	1・2後		2								兼 1	
科健康・体育	体育実技	1前・後		1								兼 3
	体育講義	1前・後		2								兼 4
人文・芸術・思想科目	音楽	1前・後		2								兼 2 4 スーパーグローバル大学創成支援事業により英語クラスを増設したため兼任教員を追加し兼2に変更(28)
	美術	1前・後		2								兼 2
	文学	1前・後		2								兼 3 4 担当辞退があり、兼3に変更(27)
	哲学	1前・後		2								兼 2 4 スーパーグローバル大学創成支援事業により英語クラスを増設したため兼任教員を追加し兼2に変更(28)
	倫理学	1前・後		2								兼 1 2 担当辞退があり、兼1に変更(25)

共通科目	人文・芸術・思想科目	宗教学	1 前・後	2						兼 4	
		歴史	1 前・後	2						兼 7 6 7 8	①担当辞退があり、兼7に変更(26) ②担当講師の在外研究派遣に伴い、兼6に変更(27) ③担当講師の在外研究派遣終了のため、兼7に変更(28)
		言語論	1 前・後	2						兼 4 2	担当者を変更し、兼4に変更(28)
		文章表現法	1前	2						兼 1	
	社会・文化・生活科目	法学概説	1 前・後	2						兼 1	
		日本国憲法	1 前・後	2						兼 2	
		経済学	1 前・後	2						兼 2 4	履修者増加により授業開講数を増やし兼2に変更(27)
		経営学	1 前・後	2						兼 3	
		社会学	1 前・後	2						兼 6 7 5 6	①担当辞退があり、兼5に変更(26) ②スーパーグローバル大学創成支援事業により英語クラスを増設したため兼担教員を追加し兼7に変更(27) ③担当辞退があり、兼6に変更(28)
		政治学	1 前・後	2						兼 3 2	①スーパーグローバル大学創成支援事業により英語クラスを増設したため兼担教員を追加し兼3に変更(27) ②担当辞退に伴う、担当者の変更(28)
心理学入門		1 前・後	2						兼 4 2	履修者増加により授業開講数を増やしたため、兼4に変更(26)	
教養地理学	1 前・後	2						兼 1			
自然・数理・情報科目	数理科学	1 前・後	2						兼 4 2 3	①担当辞退があり、兼2に変更(26) ②平成26年度に辞退した兼任教員の後任が決定したこと、スーパーグローバル大学創成支援事業により英語クラスを増設したため兼担教員を追加し兼4に変更(27)	
	統計学入門	1 前・後	2						兼 2 1	担当者を変更し、兼2に変更(26)	
	物理科学	1 前・後	2						兼 2		
	コンピュータ・リテラシー	1前	2						兼 1		
	情報科学	1 前・後	2						兼 4		
	生命科学	1 前・後	2		1	0 1			兼 4 5	①担当辞退があり、兼4に変更(25) ②准教授から教授へ職位の変更(28) 担当 佐々木諭(教授) 平成28年1月 教員審査済 判定 可	
	環境科学	1 前・後	2						兼 4 3	スーパーグローバル大学創成支援事業により英語クラスを増設したため兼担教員を追加し兼4に変更(28)	
	プログラミング	1 前・後	2						兼 3 2	担当者を変更し、兼3に変更(27)	
専門科目	人間のからだところ 専門基礎分野	構造機能学Ⅰ	1前	1		1				兼 1	
		構造機能学Ⅱ	1後	1		1				兼 4	
		生化学の基礎	1前	2		1				兼 2	
		病態生理学	1後	2		1				兼 1	
		栄養学	1後	2						兼 5	
		診断治療学Ⅰ	2前	2		1				兼 10	
		診断治療学Ⅱ	2後	2		1				兼 1	
		薬理学	2前	2						兼 1	

専門科目		心理学	2前	2							兼 1	
		看護とリハビリテーション	2後	2							兼 1	
	健康と社会	人間関係とコミュニケーション	1前	1		2						
		健康と生活	1前	2		2	2		2			
		生命倫理	1後	2							兼 2	
		社会保障・社会福祉論	2前	2							兼 1	
		公衆衛生入門	2後	1			2		1			
		疫学・保健統計	3前	2		1	0	1			准教授から教授へ職位の変更(28) 担当 佐々木諭(教授) 平成28年1月 教員審査済 判定 可	
	看護の専門分野 I	看護学概論	1前	2			1					
		生活援助技術 I	1前	1					2		3	
		生活援助技術 II	1前	1					2		3	
		生活援助技術 III	1後	1					2		3	
		生活援助技術 IV	1後	1					2		3	
		看護理論	1後	1			1					
		フィジカルアセスメント	1後	1			1	1			3	
		臨床看護技術 I	2前	1			1	1			3	
		臨床看護技術 II	2後	1			1	1			3	
		看護過程演習	2前	1			2	3			3	
		基礎看護学実習 I	1前	1			3	2	4	5	7	8
		基礎看護学実習 II	2後	2			4	3	3	4	7	8
		看護の専門分野 II	成人看護学概論	2前	2		1					
	成人看護急性期援助論 I		2後	1		1	1					
	成人看護急性期援助論 II		3前	1		1	2	1	1	1	1	
	成人看護慢性期援助論 I		2後	1			1					
	成人看護慢性期援助論 II		3前	1		1	2	1	0	1	1	
	成人看護学急性期実習		3前・後	3		1	1	1	1	1	1	
	成人看護学慢性期実習		3前・後	3		0	1		1	1	1	
	老年看護学科目	老年看護学概論	2前	2			1					
		老年看護援助論 I	2後	1			1		1	1	兼 1	
		老年看護援助論 II	3前	1			1		1	1	兼 1	
		老年看護学実習	3前・後	4			2	0	1	0	2	
	小児看護学科目	小児看護学概論	2前	2		1		1				
		小児看護援助論 I	2後	1		1		1				
		小児看護援助論 II	3前	1		1		1		1		
		小児看護学実習	3前・後	2		1		1		1	兼 1	
	母性看護学科目	母性看護学概論	2後	2			1					
		母性看護援助論 I	3前	1			1		2	1		
		母性看護援助論 II	3後	1			1		2	1		
		母性看護学実習	4前	2			1		2	1	兼 1	
専門	精神	精神看護学概論	2前	2		2						

I 科目	看護学科目	看護学											
		2後	2				2			1			
	精神看護援助論	2後	2				2			1			実習指導体制および教員組織充実のため、教員を追加(27) 担当 木村幸代(助教) 平成26年9月 教員審査済 判定 可
	精神看護学実習	3前・後	2				2			1			①実習指導体制および教員組織充実のため、教員を追加(27) 担当 木村幸代(助教) 平成26年9月 教員審査済 判定 可 ②専任教員(木村助教)の採用に伴い、兼任教員を削除(28)
	地域在宅看護学概論	2後	2				2			1			
	地域在宅看護援助論Ⅰ	3前	1				2			1	1		
	地域在宅看護援助論Ⅱ	3後	1				2			1	1		
	地域在宅看護学実習	4前	2				2			1	1		
	国際看護科目												
	国際保健学	2後	2				1	0	+				准教授から教授へ職位の変更(28) 担当 佐々木諭(教授) 平成28年1月 教員審査済 判定 可
	国際看護学	1後		2				2					
	国際看護特講a	1後		2			1	0	+				准教授から教授へ職位の変更(28) 担当 佐々木諭(教授) 平成28年1月 教員審査済 判定 可
	国際看護特講b	1後		2				1					
	国際看護特講c	1後		2				1					
	国際看護研修	2前		2			1	1	3		1		①准教授から教授へ職位の変更(28) 担当 佐々木諭(教授) 平成28年1月 教員審査済 判定 可 ②健康上の問題のため、准教授の研修担当を免除(28)
	看護の統合と発展科目												
	キャリアプランニング基礎	1前	1				6	9	8	5	4		演習体制充実のため、教員を追加(28) 担当 田中結花子(准教授) 平成27年7月 教員審査済 判定 可
	看護管理論	3前	2				1			1			兼 2
	感染看護論	3前	1										
	看護学研究方法論	3後	1				3						兼 1
	災害看護論	4前	1										
	卒業研究演習	4前	1				6	9	10	5	4	3	①講師から准教授へ職位の変更(27) 担当 田中結花子(准教授) 平成27年1月 教員審査済 判定 可 ②演習指導体制充実のため、教員を追加(28) 担当 佐藤美香(講師) 平成27年7月 教員審査済 判定 可 ③准教授から教授へ職位の変更(28) 担当 佐々木諭(教授) 平成28年1月 教員審査済 判定 可 ④辞任のため、教授1名を削除(28) ⑤辞任のため、助教1名を削除(28)
	看護実践統合実習	4後	2				4	9	5	8	5	7	①講師から准教授へ職位の変更(27) 担当 田中結花子(准教授) 平成27年1月 教員審査済 判定 可 ②実習指導体制および教員組織充実のため、教員を追加(27) 担当 木村幸代(助教) 平成26年9月 教員審査済 判定 可 ③辞任のため、教授1名を削除(28) ④実習指導体制充実のため、兼任教員を2名追加(28)
	卒業論文	4後	2				6	9	10	5	6	3	①講師から准教授へ職位の変更(27) 担当 田中結花子(准教授) 平成27年1月 教員審査済 判定 可 ②准教授から教授へ職位の変更(28) 担当 佐々木諭(教授) 平成28年1月 教員審査済 判定 可 ③辞任のため、教授1名を削除(28) ④辞任のため、助教1名を削除(28)
	医療連携論	3前		1				2					
	クリティカルケア論	4前		1						1		2	
	がん看護論	4前		1			2						
	リエゾン精神看護	4前		1			1						
	家族看護論	4後		1			3	2					
	生活習慣病予防と看護	4後		1				1				1	

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \frac{0}{118} = 0.00$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	教職員宿舎用の土地売却 に伴う変更 (27)					
	校舎敷地	262,997.08 m ²	0 m ²	0 m ²	262,997.08 m ²						
	運動場用地	108,423.08 m ²	0 m ²	0 m ²	108,423.08 m ²						
	小 計	371,420.16 m ²	0 m ²	0 m ²	371,420.16 m ²						
	そ の 他	371,326.19 m ² 371,779.61 m²	0 m ²	0 m ²	371,326.19 m ² 371,779.61 m²						
	合 計	742,746.35 m ² 743,199.77 m²	0 m ²	0 m ²	742,746.35 m ² 743,199.77 m²						
(2) 校 舎	専 用	165,977.78 m ² 166,016.18 m² 171,692.39 m ²	0 m ²	0 m ²	165,977.78 m ² 166,016.18 m² 171,692.39 m ²	看護学部棟・中央教育棟の竣工面積 確定に伴う変更(26) 理科実験棟・福利厚生棟②の解体に 伴う変更(26) 学生センターの用途精査に伴う修正 (26) 教育学部増築棟の計画面積の変更 (26) 教育学部増築棟の竣工面積確定に 伴う変更(28)					
	(113,030.22 m ²)	() m ²	() m ²	(113,030.22 m ²)							
(3) 教 室 等	講 義 室	60 79 127 室	演 習 室	42 92 135 室	実験実習室	5 12 室	情報処理学習施設	11 14 19 室 (補助職員 0人)	語学学習施設	1 -6 室 (補助職員 0人)	大学全体 大学全体の数字を報告 していたため、看護学 部の数字を記載 (27)
	(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		看護学部 看護学科		27 28 室		
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書・雑誌・視聴覚資料 を追加購入した。 視聴覚資料は計画を上 回る点数を追加購入し た。(27) 図書・雑誌・視聴覚資料 を追加購入した。 (28)			
	看護学部	6,000 [1,200] 6,500 1,179 6,000 1,123 5,698 1,063 (5,000 [1,000])	75 [30] 75 70 30 (53 [23])	600 [300] (600 [300])	89 85 82 (89 85 82 68)	13,167 (13,167)	98 (98)				
	計	6,000 [1,200] 6,500 1,179 6,000 1,123 5,698 1,063 (5,000 [1,000])	75 [30] 75 70 30 (53 [23])	600 [300] (600 [300])	89 85 82 (89 85 82 68)	13,167 (13,167)	98 (98)				
	(6) 図 書 館	面 積	8,763.80 m ²	閱 覧 座 席 数	1,200 席	収 納 可 能 冊 数	1,290,079 冊				
(7) 体 育 館	面 積	13,585.06 m ²	体育館以外のスポーツ施設の概要				プールは老朽化のため、 取り壊した。 (27)				
			陸上競技場、野球場、ラグビー場、プール等								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費には視聴覚 教材・電子ジャーナル・ データベースの整備 費(運用コスト含 む)を含む。		
		教員1人当たり研究費等	430千円	430千円	図書購入費	37,600千円	8,470千円 7,000千円	7,000千円			
	共同研究費等	3,000千円	3,000千円	設備購入費	356,420千円	2,000千円	2,000千円	図書購入費の開設年度の 増額修正は視聴覚教材・ 資料の充実を図った ため。(26)			
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,546千円	1,300千円	1,300千円	1,300千円	千円	千円					
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、寄付金 等									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成28年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(28)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	創 価 大 学								備 考
	既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開 設 年 度	
	年	人	年次人	人			倍		
経済学部									
経済学科	4	※200	—	850	学士 (経済学)	1.09	昭和46年度	東京都八王子市丹木町1-236	※平成26年度
法学部									
法律学科	4	250	-	1,000	学士 (法学)	1.09	昭和46年度	同上	
文学部									
人間学科	4	370	-	1,480	学士 (文学)	1.07	昭和46年度	同上	
経営学部									
経営学科	4	※200	-	850	学士 (経営学)	1.10	昭和51年度	同上	※平成26年度
教育学部									
教育学科	4	80	-	320	学士 (教育学)	1.09	昭和51年度	同上	
児童教育学科	4	100	-	400	学士 (教育学)	1.10	昭和51年度	同上	
理工学部									
情報システム工学科	4	※80	-	300	学士 (工学)	1.07	平成3年度	同上	※平成25年度 70人 ※平成27年度 80人
共生創造理工学科	4	100	-	200	学士 (理工学)	1.14	平成27年度	同上	
生命情報工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成3年度	同上	※平成27年より学生募集停止
環境共生工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成15年度	同上	※平成27年より学生募集停止
看護学部									
看護学科	4	80	-	320	学士 (看護学)	1.05	平成25年度	同上	
国際教養学部									
国際教養学科	4	80	-	240	学士 (国際教養学)	1.08	平成26年度	同上	
[大学院]〈博士前期課程〉									
経済学研究科									
経済学専攻	2	15	-	30	修士 (経済学)	0.60	昭和50年度	同上	
法学研究科									
法律学専攻	2	15	-	30	修士 (法学)	0.26	昭和50年度	同上	
文学研究科									
英文学専攻	2	10	-	20	修士 (英文学)	0.20	昭和50年度	同上	
社会学専攻	2	10	-	20	修士 (社会学)	0.50	昭和50年度	同上	

教育学専攻	2	15	-	30	修士 (教育学)	0.79	昭和61年度	同上	
人文学専攻	2	8	-	16	修士 (人文学)	0.31	平成4年度	同上	
工学研究科									
情報システム工学専攻	2	30	-	60	修士 (工学)	0.89	平成7年度	同上	
生命情報工学専攻	2	20	-	40	修士 (工学)	0.95	平成7年度	同上	
環境共生工学専攻	2	25	-	50	修士 (工学)	0.98	平成19年度	同上	
[大学院]〈修士課程〉									
文学研究科									
国際言語教育専攻	2	15	-	30	修士 (教育学)	0.73	平成21年度	同上	
[大学院]〈博士後期課程〉									
経済学研究科									
経済学専攻	3	5	-	15	博士 (経済学)	0.26	昭和52年度	同上	
法学研究科									
法律学専攻	3	3	-	9	博士 (法学)	0.00	昭和52年度	同上	
文学研究科									
英文学専攻	3	5	-	15	博士 (英文学)	0.06	昭和52年度	同上	
社会学専攻	3	5	-	15	博士 (社会学)	0.26	昭和52年度	同上	
教育学専攻	3	2	-	6	博士 (教育学)	0.16	平成元年度	同上	
人文学専攻	3	4	-	12	博士 (人文学)	0.08	平成6年度	同上	
工学研究科									
情報システム工学専攻	3	4	-	12	博士 (工学)	0.25	平成9年度	同上	
生命情報工学専攻	3	4	-	12	博士 (工学)	0.50	平成9年度	同上	
環境共生工学専攻	3	3	-	9	博士 (工学)	0.66	平成19年度	同上	
[大学院]〈専門職課程〉									
法務研究科									
法務専攻	3	※28	-	88	法務博士 (専門職)	0.81	平成16年度	同上	※平成28年度
教職研究科									
教職専攻	2	25	-	50	教職修士 (専門職)	0.94	平成20年度	同上	
[通信教育部]									
経済学部	4	2,000	—	8,000	学士 (経済学)	0.12	昭和51年度	同上	
法学部	4	2,000	—	8,000	学士 (法学)	0.11	昭和51年度	同上	
教育学部	4	※650	—	3,300	学士 (教育学)	0.71	昭和57年度	同上	※平成27年度
[別科]									
日本語研修課程	1	35	—	35		1.22	昭和51年度	同上	

特別履修課程	1	40	—	40		1.57	平成16年度	同上	
大学の名称	創 価 女 子 短 期 大 学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
現代ビジネス学科	2	150	—	300	短期大学士 (現代ビジ ネス)	1.08	昭和60年度	東京都八王子市丹 木町1-236	
英語コミュニケーション学科	2	100	—	200	短期大学士 (英語コミュニ ケーション)	1.04	昭和60年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成28年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授(学部長)	ナカイズミ アキヒコ 中泉 明彦	平成25年4月	構造機能学Ⅰ※ 構造機能学Ⅱ※ 生化学の基礎 病態生理学※ 診断治療学Ⅰ※ 診断治療学Ⅱ※ キャリアプランニング基礎※ 卒業研究演習 卒業論文 家族看護論※ がん看護論※						
専	教授	ムラシマ サイコ 村島 さい子	平成25年4月	成人看護急性期援助論Ⅱ※ 成人看護慢性期援助論Ⅱ※ 成人看護学慢性期実習<集中> キャリアプランニング基礎※ 看護管理論 卒業研究演習 看護実践統合実習<集中> 卒業論文 看護専門職論※ 基礎看護学実習Ⅰ<集中>(平成25, 26年度のみ担当) 基礎看護学実習Ⅱ<集中>(平成26年度のみ担当) 人間関係とコミュニケーション※(平成25年度のみ担当) 成人看護学概論			後任なし			実習指導との連動を重視して、演習と実習の担当者を同一とするため、担当を外れる。「成人看護急性期援助論Ⅱ」は、調整後も5名の担当がいるため教育上の支障はない。(28)
					兼任	講師	スギモリ テルミ 杉森 照美	平成28年7月	成人看護学慢性期実習<集中>	平成28年8月 健康上の理由により、村島さい子教授辞任予定(28) 平成28年9月採用で専任教員を公募したが、適任者がいなかったため、兼任教員を充てて対応することとした。今後、平成29年4月採用で専任教員の募集を行う。
							後任なし			平成28年8月 健康上の理由により、村島さい子教授辞任予定(28) 「卒業研究演習」は、辞任後も23名の担当がいるため教育上の支障はない。
							後任なし			平成28年8月 健康上の理由により、村島さい子教授辞任予定(28) 当該科目は、辞任後も35名の担当がいるため教育上の支障はない。
					兼任	講師	ムラシマ サイコ 村島 さい子	平成28年9月	看護専門職論※	平成28年8月 健康上の理由により、村島さい子教授辞任予定(28) オムニバス形式の「看護専門職論」の講義を兼任教員として担当する。

専	教授	オオガマ ノリマサ 大釜 徳政	平成26年4月	成人看護急性期援助論Ⅰ※						
				成人看護急性期援助論Ⅱ※						
				成人看護慢性期援助論Ⅱ※		後任なし				実習指導との連動を重視して、演習と実習の担当者を同一とするため、担当を外れる。「成人看護慢性期援助論Ⅱ」は、調整後も3名の担当がいるので教育上の支障はない。(28)
				成人看護学急性期実習<集中>						
				看護学研究方法論※						
				卒業研究演習						
				看護実践統合実習<集中>						
				卒業論文						
				がん看護論※						
				基礎看護学実習Ⅰ<集中>						
				(平成26年度のみ担当)						
				基礎看護学実習Ⅱ<集中>						
				(平成26年度のみ担当)						
				キャリアプランニング基礎※(平成26年度から3年ごとに演習担当)						
専	教授	ナガヌマ タカミ 長沼 貴美	平成25年4月	健康と生活※						
				小児看護学概論※						
				小児看護援助論Ⅰ※						
				小児看護援助論Ⅱ※						
				小児看護学実習<集中>						
				看護学研究方法論※						
				卒業研究演習						
				看護実践統合実習<集中>						
				卒業論文						
				家族看護論※						
				基礎看護学実習Ⅰ<集中>						
				(平成25年度のみ担当)						
				基礎看護学実習Ⅱ<集中>						
				(平成26年度のみ担当)						
				キャリアプランニング基礎※(平成25年度から3年ごとに演習担当)						
専	教授	イガラシ アイコ 五十嵐 愛子	平成25年4月	人間関係とコミュニケーション※						
				精神看護学概論						
				精神看護援助論※						
				精神看護学実習<集中>						
				リエゾン精神看護						
				看護実践統合実習<集中>						
				卒業研究演習						
				卒業論文						
				家族看護論※						
				基礎看護学実習Ⅰ<集中>						
				(平成25、26年度のみ担当)						
				基礎看護学実習Ⅱ<集中>						
				(平成26年度のみ担当)						
				キャリアプランニング基礎※(平成26年度から3年ごとに演習担当)						
				人間関係とコミュニケーション※						

専	教授	ホンダ ユウコ 本田 優子	平成26年4月	健康と生活※ 精神看護学概論 精神看護援助論※ 精神看護学実習<集中> 看護学研究方法論※ 卒業研究演習 看護実践統合実習<集中> 卒業論文 看護専門職論※ 基礎看護学実習 I <集中> (平成26年度のみ担当) 基礎看護学実習 II <集中> (平成26年度のみ担当) キャリアプランニング基礎※(平成27年度から3年ごとに演習担当)						
兼任	講師	ホンダ ユウコ 本田 優子	平成25年4月	人間関係とコミュニケーション※ 健康と生活※						
専	准教授	ササキ サトシ 佐々木 諭	平成25年4月	疫学・保健統計 国際保健学 国際看護特講 a (平成25年度から3年ごとに担当) 国際看護研修<集中> 卒業研究演習 卒業論文 共通基礎演習 生命科学	専	教授	ササキ サトシ 佐々木 諭	平成25年4月	疫学・保健統計 国際保健学 国際看護特講 a (平成25年度から3年ごとに担当) 国際看護研修<集中> 卒業研究演習 卒業論文 共通基礎演習 生命科学	平成28年4月 教授へ昇任[平成28年1月 AC教員審査済](28)
専	准教授	アキモト トシコ 秋元とし子	平成25年4月	看護学概論 看護理論 看護過程演習 基礎看護学実習 I <集中> 基礎看護学実習 II <集中> 国際看護学※ 国際看護特講 b (平成26年度から3年ごとに担当) 国際看護研修<集中>						
				卒業研究演習 看護実践統合実習<集中> 卒業論文 看護実践と倫理的課題※ キャリアプランニング基礎※(平成26年度から3年ごとに演習担当)						健康上の理由により、科目担当辞退。「国際看護研修」は、他に3名の担当者がいるので支障はない。(28)
					専	准教授	アキモト トシコ 秋元とし子	平成25年4月	臨床看護技術 II	演習指導体制をさらに充実するため、「臨床看護技術 II」の演習授業を分担。 [平成27年7月 AC教員審査済] (28)
専	准教授	ゴミ テホ 五味 千帆	平成25年4月	フィジカルアセスメント 臨床看護技術 I 臨床看護技術 II 看護過程演習 基礎看護学実習 I <集中> 基礎看護学実習 II <集中> 卒業研究演習						

				看護実践統合実習 ＜集中＞ 卒業論文 看護実践と倫理的 課題※ キャリアプラン ニング基礎※（平成 25年度から3年ごと に演習担当）					
専	准教授	ソエダ ユリコ 添田 百合子	平成25年4月	基礎看護学実習Ⅱ ＜集中＞ 成人看護慢性期援 助論Ⅰ 成人看護慢性期援 助論Ⅱ※ 成人看護学慢性期 実習＜集中＞ 卒業研究演習 看護実践統合実習 ＜集中＞ 卒業論文 生活習慣病予防と 看護※ 看護実践と倫理的 課題※ 基礎看護学実習Ⅰ ＜集中＞ （平成25、26年度 のみ担当） キャリアプラン ニング基礎※（平成 26年度から3年ごと に演習担当）					
専	准教授	タナカ ヒロコ 田中 博子	平成26年4月	成人看護急性期援 助論Ⅰ※ 成人看護急性期援 助論Ⅱ※ 成人看護慢性期援 助論Ⅱ※ 成人看護学急性期 実習＜集中＞ 国際看護学※ 国際看護特講○ （平成27年度から3 年ごとに担当） 国際看護研修＜集 中＞ 卒業研究演習 看護実践統合実習 ＜集中＞ 卒業論文 基礎看護学実習Ⅰ ＜集中＞ （平成26年度のみ 担当） 基礎看護学実習Ⅱ ＜集中＞ （平成26年度のみ 担当） キャリアプラン ニング基礎※（平成 27年度から3年ごと に演習担当）					
兼任	講師	タナカ ヒロコ 田中 博子	平成25年4月	国際看護学※					
専	准教授	ヒガシモリ ユカ 東森 由香	平成25年4月	老年看護学概論 老年看護援助論Ⅰ ※ 老年看護援助論Ⅱ ※ 老年看護学実習＜ 集中＞ 卒業研究演習 看護実践統合実習 ＜集中＞ 卒業論文 医療連携論※ 基礎看護学実習Ⅰ ＜集中＞ （平成25年度のみ 担当）					
						後任なし			実習指導との連動を重視して、演習と実習の担当者を同一とするため、担当を外れる。「成人看護慢性期援助論Ⅱ」は、調整後も3名の担当者がいるので教育上の支障はない。(28)

				基礎看護学実習Ⅱ ＜集中＞ （平成26年度のみ 担当） キャリアプラン ニング基礎※（平成 26年度から3年ごと に演習担当）					
専	准教授	シムラ テツコ 志村 千鶴子	平成26年4月	母性看護学概論 母性看護援助論Ⅰ ※ 母性看護援助論Ⅱ ※＜集中＞ 母性看護学実習＜ 集中＞ 卒業研究演習 看護実践統合実習 ＜集中＞ 卒業論文 キャリアプラン ニング基礎※（平成 27年度から3年ごと に演習担当）					
専	准教授	オクヤマ ミキコ 奥山 みき子	平成25年4月	健康と生活※ 公衆衛生入門※ 地域在宅看護学概 論※ 地域在宅看護援助 論Ⅰ※ 地域在宅看護援助 論Ⅱ＜集中＞ 地域在宅看護学実 習＜集中＞ 卒業研究演習 看護実践統合実習 ＜集中＞ 卒業論文 医療連携論※ 家族看護論※ 基礎看護学実習Ⅰ ＜集中＞ （平成25年度のみ 担当） 基礎看護学実習Ⅱ ＜集中＞ （平成26年度のみ 担当） キャリアプラン ニング基礎※（平成 25年度から3年ごと に演習担当）					
専	准教授	フジタ ミエ 藤田 美江	平成25年4月	健康と生活※ 公衆衛生入門※ 地域在宅看護学概 論※ 地域在宅看護援助 論Ⅰ※ 地域在宅看護援助 論Ⅱ＜集中＞ 地域在宅看護学実 習＜集中＞ 卒業研究演習 看護実践統合実習 ＜集中＞ 卒業論文 家族看護論※ 基礎看護学実習Ⅰ ＜集中＞ （平成25年度のみ 担当） 基礎看護学実習Ⅱ ＜集中＞ （平成26年度のみ 担当） キャリアプラン ニング基礎※（平成 25年度から3年ごと に演習担当）					
				生活援助技術Ⅰ 生活援助技術Ⅱ 生活援助技術Ⅲ					

専	講師	ハヤシ マリコ 林 真理子	平成25年4月	生活援助技術Ⅳ 看護過程演習 基礎看護学実習Ⅰ ＜集中＞ 基礎看護学実習Ⅱ ＜集中＞ 卒業研究演習 看護実践統合実習 ＜集中＞ 卒業論文 キャリアプランニ ング基礎※（平成 27年度から3年ごと に演習担当）					
専	講師	アオキ リョウコ 青木 涼子	平成25年4月	生活援助技術Ⅰ 生活援助技術Ⅱ フィジカルアセス メント 臨床看護技術Ⅱ 看護過程演習 基礎看護学実習Ⅰ ＜集中＞ 基礎看護学実習Ⅱ ＜集中＞ 卒業研究演習 看護実践統合実習 ＜集中＞ 卒業論文 キャリアプランニ ング基礎※（平成 25年度から3年ごと に演習担当）					
専	講師	ノウミ キョコ 能見 清子	平成25年4月	生活援助技術Ⅲ 生活援助技術Ⅳ 臨床看護技術Ⅰ 看護過程演習 基礎看護学実習Ⅰ ＜集中＞ 基礎看護学実習Ⅱ ＜集中＞ 看護管理論 卒業研究演習 看護実践統合実習 ＜集中＞ 卒業論文 キャリアプランニ ング基礎※（平成 26年度から3年ごと に演習担当）					
	専	講師	ノウミ キョコ 能見 清子	平成25年4月	臨床看護技術Ⅱ				演習指導体制をさらに充実するため、「臨床看護技術Ⅱ」の演習授業を分担。 【平成27年7月 AO教員審査済】(28)
専	講師	オオガマ ノブマサ 大釜 信政	平成25年4月	基礎看護学実習Ⅰ ＜集中＞ 成人看護急性期援助論Ⅱ※ 成人看護慢性期援助論Ⅱ※ 成人看護学急性期 実習＜集中＞ 卒業研究演習 看護実践統合実習 ＜集中＞ 卒業論文 クリティカルケア 論 看護専門職論※ キャリアプランニ ング基礎※（平成 25年度から3年ごと に演習担当）					実習指導との連動を重視して、演習と実習の担当者を同一とするため、担当を外れる。「成人看護慢性期援助論Ⅱ」は、調整後も3名の担当者がいるので教育上の支障はない。(28)
				基礎看護学実習Ⅰ ＜集中＞ 基礎看護学実習Ⅱ ＜集中＞					基礎看護学実習Ⅰ ＜集中＞ 基礎看護学実習Ⅱ ＜集中＞

専	講師	タナカ ユカコ 田中 結花子	平成27年4月	老年看護学実習<集中> 卒業研究演習 看護実践統合実習<集中> 卒業論文	専 准教授	タナカ ユカコ 田中 結花子	平成27年4月	老年看護学実習<集中> 卒業研究演習 看護実践統合実習<集中> 卒業論文	平成27年4月 准教授へ昇任。 [平成27年1月 AC教員審査済] (27)
					専 准教授	タナカ ユカコ 田中 結花子	平成27年4月	老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ キャリアプランニング基礎	平成28年度より、「老年看護援助論Ⅰ」「老年看護援助論Ⅱ」および「キャリアプランニング基礎」の各科目の演習指導体制の充実を図るため、田中結花子准教授の担当科目の追加。 [平成27年7月 AC教員審査済] (28)
専	講師	サトウ ミカ 佐藤 美香	平成25年4月	小児看護学概論※ 小児看護援助論Ⅰ※ 小児看護援助論Ⅱ※ 小児看護学実習<集中> 看護実践統合実習<集中> 卒業論文 基礎看護学実習Ⅰ<集中> (平成25、26年度のみ担当) 基礎看護学実習Ⅱ<集中> (平成26年度のみ担当) キャリアプランニング基礎※(平成26年度から3年ごとに演習担当)					
					専 講師	サトウ ミカ 佐藤 美香	平成25年4月	卒業研究演習	平成28年度より、小児看護学分野の「卒業研究演習」指導体制充実のため、佐藤美香講師の担当授業科目の追加。 [平成27年7月 AC教員審査済] (28)
専	助教	ミキ タمام 三木 珠美	平成27年4月	基礎看護学実習Ⅰ<集中> 基礎看護学実習Ⅱ<集中> 成人看護急性期援助論Ⅱ※ 成人看護学急性期実習<集中> 看護実践統合実習<集中>					
専	助教	オカモト キミエ 岡本 きみ江	平成27年4月	基礎看護学実習Ⅰ<集中> 基礎看護学実習Ⅱ<集中> 成人看護学慢性期実習<集中> 看護実践統合実習<集中>	専 助教	オカモト キミエ 岡本 きみ江	平成25年4月	基礎看護学実習Ⅰ<集中> 基礎看護学実習Ⅱ<集中> 成人看護学慢性期実習<集中> 看護実践統合実習<集中>	平成27年4月就任予定であったが、今松友紀助教の就任が遅延することになったため、その交代として時期を早めて就任 (25)
					専 助教	オカモト キミエ 岡本 きみ江	平成25年4月	成人看護慢性期援助論Ⅱ キャリアプランニング基礎	平成28年度より、実習指導との連動及び演習指導体制充実のため、担当授業科目を追加。 [平成28年1月 AC教員審査済] (28)
専	助教	マツダイラ ユカ 松平 裕佳	平成26年4月	基礎看護学実習Ⅰ<集中> (平成26年度から担当) 基礎看護学実習Ⅱ<集中> 老年看護援助論Ⅰ※ 老年看護援助論Ⅱ※ 老年看護学実習<集中> 卒業研究演習 看護実践統合実習<集中>	専 助教	スズキ トモコ 鈴木 智子	平成28年4月	基礎看護学実習Ⅰ<集中> 基礎看護学実習Ⅱ<集中> 老年看護援助論Ⅰ※ 老年看護援助論Ⅱ※ 老年看護学実習<集中>	平成27年10月 松平裕佳助教辞任のため、教員を新規採用 [平成28年1月 AC教員審査済] (28)
						後任なし			平成27年10月 一身上の都合(育児)により、松平裕佳助教辞任 (28) 「卒業研究演習」は、辞任後も23名の担当者がいるため支障はない。
					専 助教	スズキ トモコ 鈴木 智子	平成28年4月	看護実践統合実習<集中>	平成27年10月 松平裕佳助教辞任のため、教員を新規採用 [平成28年1月 AC教員審査済] (28)

				卒業論文			後任なし			平成27年10月 一身上の都合（育児）により、松平裕佳助教辞任（28） 「卒業論文」は、辞任後も23名の担当者がいるため支障はない。
				キャリアプランニング基礎※（平成27年度から3年ごとに演習担当）	専	助教	スズキ トモコ 鈴木 智子	平成28年4月	キャリアプランニング基礎	平成27年10月 松平裕佳助教辞任のため、教員を新規採用 【平成28年1月 AO教員審査済】（28）
					兼任	講師	マツダイラ ユカ 松平 裕佳	平成27年10月	老年看護援助論Ⅰ※ 老年看護援助論Ⅱ※	平成27年10月 一身上の都合（育児）により、松平裕佳助教辞任（28） オムニバス形式の「老年看護援助論Ⅰ・Ⅱ」の講義を兼任教員として担当する。
専	助教	カタオカ ユウカ 片岡 優華	平成27年4月	基礎看護学実習Ⅰ<集中> 基礎看護学実習Ⅱ<集中> 母性看護援助論Ⅰ※ 母性看護援助論Ⅱ※<集中> 母性看護学実習<集中> 卒業研究演習 看護実践統合実習<集中> 卒業論文 キャリアプランニング基礎※（平成27年度から3年ごとに演習担当）						
専	助教	タナカ リエ 田中 利枝	平成25年4月	健康と生活※ 基礎看護学実習Ⅰ<集中> 基礎看護学実習Ⅱ<集中> 母性看護援助論Ⅰ※ 母性看護援助論Ⅱ※<集中> 母性看護学実習<集中> 卒業研究演習 看護実践統合実習<集中> 卒業論文 キャリアプランニング基礎※（平成25年度から3年ごとに演習担当）						
専	助教	イママツ ユキ 今松 友紀	平成25年4月	健康と生活※ 公衆衛生入門※ 基礎看護学実習Ⅰ<集中> 基礎看護学実習Ⅱ<集中> 地域在宅看護学概論※ 地域在宅看護援助論Ⅰ※ 地域在宅看護援助論Ⅱ<集中> 地域在宅看護学実習<集中> 卒業研究演習 看護実践統合実習<集中> 卒業論文 生活習慣病予防と看護※ キャリアプランニング基礎※（平成27年度から3年ごとに演習担当）	専	助教	イママツ ユキ 今松 友紀	平成26年4月	健康と生活※ 公衆衛生入門※ 基礎看護学実習Ⅰ<集中> 基礎看護学実習Ⅱ<集中> 地域在宅看護学概論※ 地域在宅看護援助論Ⅰ※ 地域在宅看護援助論Ⅱ<集中> 地域在宅看護学実習<集中> 卒業研究演習 看護実践統合実習<集中> 卒業論文 生活習慣病予防と看護※ キャリアプランニング基礎※（平成27年度から3年ごとに演習担当）	現職の諸事情により、就任が1年遅延（25）
					兼任	講師	イママツ ユキ 今松 友紀	平成25年4月	健康と生活※	就任が1年遅れるので、平成25年度は兼任講師として科目を担当（25）
									基礎看護学実習Ⅰ<集中> 基礎看護学実習Ⅱ<集中>	実習指導体制の強化と教員組織の

					専	助教	キムフ アナコ 木村 幸代	平成27年4月	精神看護援助論※ 精神看護学実習<集中> 看護実践統合実習<集中>	元夫のみの、精神看護学領域の専任教員として追加。 [平成26年9月 A C教員審査済] (27)
兼任	教授	コヤマ ミツル 小山 満	平成25年4月	美術						
兼任	教授	セキガワ ヨシヒト 関川 佳人	平成25年4月	体育実技 体育講義						
兼任	教授	イケダ ヒデヒコ 池田 秀彦	平成25年4月	法学概説						
兼任	教授	イノウエ アヤコ 井上 アヤ子	平成25年4月	体育講義 体育実技						
兼任	教授	ワダ コウイチ 和田 光一	平成25年4月	社会学			後任なし			「社会学」の担当辞退。同科目は他に5名の担当者がいるので、教育上は支障ない。(26)
兼任	教授	コグレ シンイチ 木暮 信一	平成25年4月	生命倫理※ 生命科学	兼任	教授	コグレ シンイチ 木暮 信一	平成25年4月	生命倫理※ 生命科学	「生命科学」の担当辞退。同科目は他に複数の担当者がいるので、教育上支障ない。(25)
兼任	教授	ハスヌマ アキコ 運沼 昭子	平成25年4月	言語論	兼任	教授	ヤマカ マサ 山岡 政紀	平成28年4月	言語論	運沼教授の「言語論」の担当辞退に伴う担当者の変更。(28)
					兼任	教授	タカハシ タカシ 高橋 正	平成28年4月	言語論	
					兼任	准教授	クラミツ マサミ 倉光 雅己	平成28年4月	言語論	
兼任	教授	ミズタニ マコト 水谷 誠	平成25年4月	文学						
兼任	教授	サカモト タツロウ 坂本 辰朗	平成25年4月	大学論						
兼任	教授	マガリ ハルオ 鉤 治雄	平成25年4月	心理学入門	兼任	教授	マガリ ハルオ 鉤 治雄	平成25年4月	心理学入門	履修者増加のため、「心理学入門」の開講数を増やし、増加分のクラスを新たに2名の教員で担当。(26)
					兼任	講師	オザワ リエコ 小澤 理恵子	平成26年4月	心理学入門	
					兼任	講師	イ ファジョン 李 和真	平成26年4月	心理学入門	
兼任	教授	ハバ ヨシヒサ 馬場 善久	平成25年4月	統計学入門	兼任	教授	コバヤシ コウジ 小林 孝次	平成26年4月	統計学入門	馬場教授の「統計学入門」の担当辞退に伴う担当者の変更。(26)
					兼任	准教授	ウスイ タケヒロ 碓井 健寛	平成26年4月	統計学入門	
					兼任	講師	ヤスタケ タエコ 安武 妙子	平成27年4月	統計学入門	
					兼任	講師	サカマ タカシ 佐久間 貴之	平成28年4月	統計学入門	
兼任	教授	フジタ ヒサノリ 藤田 尚則	平成25年4月	日本国憲法						
兼任	教授	ナカジマ カズユキ 中嶋 一行	平成25年4月	生命科学						
兼任	教授	タナカ リョウヘイ 田中 亮平	平成25年4月	文学			後任なし			田中教授の担当辞退。「文学」は他に3名の担当教員がいるため、支障はない。(27)
兼任	教授	スギヤマ ユキオ 杉山 由紀男	平成25年4月	共通基礎演習						
兼任	教授	クニシマ ヒロユキ 國島 弘行	平成25年4月	経営学						
兼任	教授	カンダチ コウイチ 神立 孝一	平成25年4月	人間教育論						
兼任	教授	テラニシ ヒロトモ 寺西 宏友	平成25年4月	人間教育論	兼任	教授	テラニシ ヒロトモ 寺西 宏友	平成25年4月	人間教育論 共通基礎演習	教育課程の充実のため、共通基礎演習の開講数を増やしたことによる担当の追加。(27)
兼任	教授	ハヤシ アキラ 林 亮	平成25年4月	社会学						
兼任	教授	サカベ ソウイチ 坂部 創一	平成25年4月	情報科学						
兼任	教授	ヒグチ マサル 樋口 勝	平成25年4月	共通基礎演習						

兼任	教授	ヨシカワ セイジ 吉川 成司	平成25年4月	心理学入門	兼任	准教授	タムラ シュウイチ 田村 修一	平成25年4月	心理学 心理学入門	吉川教授の担当辞退に伴い、田村准教授に「心理学入門」の担当を追加。(26)
兼任	教授	コジマ ノブヤス 小島 信泰	平成25年4月	共通基礎演習 宗教学	兼任	教授	マリア グアハルド Maria Guajardo	平成27年4月	共通基礎演習	小島教授の共通基礎演習担当辞退に伴い、同科目の担当をGuajardo教授へ変更。(27)
					兼任	教授	コジマ ノブヤス 小島 信泰	平成25年4月	宗教学	
兼任	教授	マルタ シンサク 丸田 晋策	平成25年4月	生命科学						
兼任	教授	ナカヤマ マサシ 中山 雅司	平成25年4月	共通基礎演習						
兼任	教授	クボタ ヒデアキ 久保田 秀明	平成25年4月	体育講義 体育実技						
兼任	教授	セキ アツシ 関 篤志	平成25年4月	生命科学※						
兼任	教授	タマイ ヒデキ 玉井 秀樹	平成25年4月	社会学	兼任	教授	ハヤシ アキラ 林 亮	平成28年4月	社会学	玉井教授の担当辞退に伴う担当者変更。(28)
兼任	教授	カンザカ ジュンイチ 勘坂 純市	平成25年4月	現代文明論						
兼任	教授	チェ ヨンウン 崔 龍雲	平成25年4月	物理科学						
兼任	教授	ヤマナカ マサキ 山中 正樹	平成25年4月	文学						
兼任	教授	キノシタ カオル 木下 薫	平成25年4月	人間教育論	兼任	准教授	サガエ ミツノリ 寒河江 光徳	平成25年4月	人間教育論	担当者の変更 (25)
					兼任	教授	ローレンス マクドナルド Laurence MacDonald	平成27年4月	人間教育論	スーパーグローバル大学創成支援事業により英語クラスを増設したことによる教員の追加(27)
					兼任	教授	オサナイ マサル 小山内 優	平成27年4月	共通基礎演習	教育課程の充実のため、共通基礎演習の開講数を増やしたことによる追加。(27)
					兼任	教授	ニシウラ アキオ 西浦 昭雄	平成27年4月	共通基礎演習	教育課程の充実のため、共通基礎演習の開講数を増やしたことによる追加。(27)
					兼任	教授	イシイ ヒデアキ 石井 秀明	平成27年4月	共通基礎演習	教育課程の充実のため、共通基礎演習の開講数を増やしたことによる追加。(27)
					兼任	教授	キノ テルキ 北野 晃朗	平成28年4月	共通基礎演習	教育課程の充実のため、共通基礎演習の開講数を増やしたことによる追加。(28)
					兼任	講師	サガチ カヒロ 坂口 貴弘	平成28年4月	共通基礎演習	教育課程の充実のため、共通基礎演習の開講数を増やしたことによる追加。(28)
兼任	准教授	アツミ マサヤス 渥美 雅保	平成25年4月	情報科学	兼任	教授	アツミ マサヤス 渥美 雅保	平成25年4月	情報科学	平成26年4月教授に昇任。(26)
兼任	准教授	コンドウ カズノリ 近藤 和典	平成25年4月	生命科学※						
兼任	准教授	ニイツ タカシ 新津 隆士	平成25年4月	環境科学						
兼任	准教授	イシイ ヨシオ 石井 良夫	平成25年4月	物理科学						
兼任	准教授	タムラ シュウイチ 田村 修一	平成25年4月	心理学	兼任	教授	タムラ シュウイチ 田村 修一	平成25年4月	心理学 心理学入門	吉川教授の担当辞退に伴い、田村准教授に「心理学入門」の担当を追加。(26) 平成27年4月教授に昇任。(27)
兼任	准教授	ヤマダ リュウサク 山田 竜作	平成25年4月	共通基礎演習 政治学	兼任	教授	ヤマダ リュウサク 山田 竜作	平成25年4月	共通基礎演習 政治学	平成26年4月 教授に昇任。(26) 「共通基礎演習」「政治学」の担当辞退。「共通基礎演習」は兼任の坂口講師で対応。「政治学」は、他に3名の担当教員がいるため、支障なし。(28)
					兼任	講師	サガチ カヒロ 坂口 貴弘	平成28年4月	共通基礎演習	山田教授の担当辞退に伴う変更。(28)
					兼任	講師	ヤマダチ ヒサオ 山口 寿男	平成28年4月	政治学	スーパーグローバル大学創成支援事業により「政治学」の英語クラスを増設したことによる担当の追加。(28)
兼任	准教授	イダ ジュンイチ 井田 旬一	平成25年4月	環境科学	兼任	教授	イダ ジュンイチ 井田 旬一	平成25年4月	環境科学	平成26年4月教授に昇任。(26)
兼任	准教授	イトウ タカオ 伊藤 貴雄	平成25年4月	倫理学	兼任	講師	カサガ ジュンイチ 春日 潤一	平成25年4月	倫理学	「倫理学」の担当辞退。兼任の春日講師の担当コマ数の増加で対応(25)

兼任	准教授	ムラカミ ノブアキ 村上 信明	平成25年4月	歴史		後任なし			村上准教授の在外研究派遣に伴う 担当辞退。「歴史」は他に6名の担 当教員がいるため、支障はない。 (27)	
兼任	准教授	ムラカミ ノブアキ 村上 信明	平成28年4月	歴史					村上准教授の在外研究派遣終了に 伴う担当復帰。(28)	
兼任	准教授	クワバラ ビクター シ ンイチ 桑原ビクター伸一	平成25年4月	人間教育論	兼任	講師	アンドリュー ゲバート A. Gebert	平成26年4月	人間教育論	桑原准教授の在外研究派遣のため、平成26年度のみ担当者を変更。(26)
兼任	准教授	スギモト イチロウ 杉本 一郎	平成25年4月	プログラミング	兼任	教授	スギモト イチロウ 杉本 一郎	平成25年4月	プログラミング	平成26年4月 教授に昇任。(26)
兼任	准教授	スギモト イチロウ 杉本 一郎	平成25年4月	プログラミング	兼任	教授	アサイ マナブ 浅井 学	平成27年4月	プログラミング	杉本教授の担当辞退に伴う変更。 (27)
兼任	准教授	スギモト イチロウ 杉本 一郎	平成25年4月	プログラミング	兼任	准教授	ナカタ ダイゴ 中田 大悟	平成28年4月	プログラミング	浅井教授の授業負担軽減のため、 担当コマの一部を中田准教授に変更。 (28)
兼任	講師	クメカワ ノリカズ 久米川 宣一	平成25年4月	環境科学						
					兼任	講師	マルコム ダガティ Malcolm D. Daugherty	平成28年4月	環境科学	スーパーグローバル大学創成支援 事業により「環境科学」の英語ク ラスを増設したことによる担当の 追加。(28)
兼任	講師	サメシマ トシアキ 鮫島 俊朗	平成25年4月	構造機能学Ⅰ※						
兼任	講師	イシカワ テルヨ 石川てる代	平成25年4月	構造機能学Ⅱ※ 診断治療学Ⅱ※						
兼任	講師	ネモト マサヒト 根本 正史	平成25年4月	構造機能学Ⅱ※ 病態生理学※ 診断治療学Ⅱ※						
兼任	講師	ナガタ ヨウイチ 永田 洋一	平成25年4月	構造機能学Ⅱ※						
兼任	講師	クニトモ マユミ 國友 万由美	平成25年4月	構造機能学Ⅱ※ 診断治療学Ⅱ※						
兼任	講師	カンオ ノブキ 加塩 信行	平成25年4月	病態生理学※ 診断治療学Ⅱ※						
兼任	講師	コバヤシ ヒロユキ 小林 広幸	平成26年4月	診断治療学Ⅰ※						
兼任	講師	ショウジ マサアキ 庄司 正昭	平成26年4月	診断治療学Ⅰ※						
兼任	講師	コンドウ カズヤ 近藤 和也	平成26年4月	診断治療学Ⅰ※						
兼任	講師	エト カヨコ 江渡加代子	平成26年4月	診断治療学Ⅰ※						
兼任	講師	ヒラサワ リュウト 平澤 龍登	平成26年4月	診断治療学Ⅰ※						
兼任	講師	ゴトウ トシタカ 後藤 智隆	平成26年4月	診断治療学Ⅱ※						
兼任	講師	イガラシ ユキコ 五十嵐 有紀子	平成26年4月	診断治療学Ⅱ※	兼任	講師	フジイ ヒロシ 藤井 裕士	平成26年4月	診断治療学Ⅱ※	兼任の五十嵐講師の就任辞退に伴 う担当者の変更。(26)
					兼任	講師	モリタ ミツアキ 森田 光明	平成28年5月	診断治療学Ⅱ※	兼任の藤井講師の担当辞退に伴 う担当者の変更。(28)
兼任	講師	ヒロセ ワタル 廣瀬 恒	平成26年4月	診断治療学Ⅱ※						
兼任	講師	サカイ ヒデキ 酒井 英樹	平成26年4月	診断治療学Ⅱ※						
兼任	講師	キウチ ケンジロウ 木内健二郎	平成26年4月	診断治療学Ⅱ※						
兼任	講師	アライ カツヒロ 新井 勝大	平成26年4月	診断治療学Ⅱ※						
兼任	講師	ヤマザキ タツヤ 山崎 達也	平成25年4月	生命倫理※ 宗教学	兼任	講師	ヤマザキ タツヤ 山崎 達也	平成25年4月	生命倫理※ 宗教学 哲学	兼任の浦講師の退任に伴い、山崎 講師に「哲学」の担当追加(25)
兼任	講師	ホリグチ ヨシエ 堀口 よし江	平成26年4月	薬理学						
兼任	講師	タカヤマ ヤスノブ 高山 康信	平成26年4月	社会保障・社会福 祉論						

兼任	講師	ナカムラ シン 中村 信	平成26年4月	看護とリハビリ テーション							
兼任	講師	イトウ ミワコ 伊藤 美和子	平成27年4月	感染看護論※							
兼任	講師	ムトウ クミコ 武藤久美子	平成27年4月	感染看護論※							
兼任	講師	スズキ ケイコ 鈴木 恵子	平成28年4月	災害看護論							
					兼任	講師	オグレ ヒロミ 尾碁 ひろみ	平成28年7月	成人看護学急性期 実習<集中>	「成人看護学急性期実習」の指導 体制充実のため教員追加 (28)	
					兼任	講師	ヨシオカ ユキコ 吉岡 雪子	平成28年4月	老年看護学実習< 集中> 看護実践統合実習	老年看護学分野の実習及び演習の 指導体制充実のため教員追加 (28)	
					兼任	講師	ナカミツ アサコ 中満 麻子	平成28年7月	小児看護学実習< 集中> 看護実践統合実習	小児看護学分野の実習の指導体制 充実のため教員追加 (28)	
					兼任	講師	サトウ ヤスコ 佐藤 康子	平成28年5月	母性看護学実習< 集中>	「母性看護学実習」の指導体制充 実のため教員追加 (28)	
兼任	講師	タカク ヤスブミ 高久 泰文	平成25年4月	日本国憲法	兼任	教授	ハナミ ツネユキ 花見 常幸	平成25年4月	日本国憲法	兼任の高久講師の退任に伴う担当 者の変更 (25)	
兼任	講師	ワダ マサヒコ 和田 正彦	平成25年4月	歴史							
兼任	講師	スズキ マサトシ 鈴木 正敏	平成25年4月	栄養学 体育講義							
					兼任	講師	ナイトウ コウゾウ 内藤 耕三	平成28年4月	体育講義	鈴木講師の都合により、体育講義 の担当を内藤講師に変更 (28)	
兼任	講師	クボ サチオ 久保 幸夫	平成25年4月	教養地理学							
兼任	講師	タカオ シュンイチ 鷹尾 俊一	平成25年4月	美術							
兼任	講師	クリハラ トシエ 栗原 淑江	平成25年4月	歴史							
兼任	講師	フジオカ ユウジロウ 藤岡 祐次郎	平成25年4月	政治学							
兼任	講師	オオグロ マサノブ 大黒 正伸	平成25年4月	社会学							
兼任	講師	ウラ ヒデオ 浦 英雄	平成25年4月	哲学	兼任	講師	ヤマザキ タツヤ 山崎 達也	平成25年4月	生命倫理※ 宗教学 哲学	兼任の浦講師の退任に伴い、山崎 講師に「哲学」の担当追加 (25)	
					兼任	講師	チヨウナバヤシ リョウ 蝶名林 亮	平成28年4月	哲学	スーパーグローバル大学創成支援 事業により「哲学」の英語クラス を増設したことによる教員の追加 (28)	
兼任	講師	カデル ビンツラズ B. カンデル	平成25年4月	経営学	兼任	講師	ウメダ トオル 梅田 徹	平成26年4月	経営学	平成26年3月 カンデル講師の退任に伴い、平成 26年度より担当者を変更。(26)	
					兼任	講師	イヌヅカ マサトモ 犬塚 正智	平成28年4月	経営学	梅田講師の退任に伴い、担当者 を変更。(28)	
兼任	講師	ミツダ タケン 満田 剛	平成25年4月	歴史			後任なし			平成26年3月 満田講師の退任。「歴史」は他に 担当教員が7名いるため、支障は ない。(26)	
兼任	教授	アリサト ノリミツ 有里 典三	平成25年4月	共通基礎演習 社会学							
兼任	教授	サカモト ミキオ 坂本 幹雄	平成25年4月	共通基礎演習 経済学							
					兼任	教授	カノウ ナオユキ 加納 直幸	平成27年4月	経済学	教育課程の充実のため、経済学の 開講数を増やしたことによる追 加。(27)	
兼任	教授	キムラ フミコ 木村 富美子	平成25年4月	コンピュータ・リ テラシー							
兼任	准教授	リュウ ケイセイ 劉 継生	平成25年4月	情報科学							
兼任	准教授	ヒダカ ヨシタカ 日高 吉隆	平成25年4月	言語論							
兼任	准教授	シミズ ツヨシ 清水 強志	平成25年4月	共通基礎演習 社会学							

					兼任 准教授	ハートムット レンツ Hartmut Lenz	平成27年4月	社会学	スーパーグローバル大学創成支援事業により「社会学」の英語クラスを増設したことによる担当の追加。(27)
					兼任 准教授	ロバート シンクレイヤー Robert Sinclair	平成27年4月	政治学	スーパーグローバル大学創成支援事業により「政治学」の英語クラスを増設したことによる担当の追加。(27)
					兼任 講師	ジョハナ ズルエタ Johanna Zulueta	平成27年4月	社会学	スーパーグローバル大学創成支援事業により「社会学」の英語クラスを増設したことによる担当の追加。(27)
兼任	講師	ヤマシタ ユミコ 山下 由美子	平成25年4月	文章表現法					
兼任	講師	ヤマモト シゲヨ 山本 成代	平成25年4月	English Communication Elementary I English Communication Elementary II 英語A I 英語A II	兼任 准教授	ヤマモト シゲヨ 山本 成代	平成25年4月	English Communication Elementary I English Communication Elementary II 英語A I 英語A II	平成26年4月 准教授に昇任(26)
					兼任 講師	スズキ ノリコ 鈴木 法子	平成28年4月	英語A I 英語A II	山本准教授の所属変更に伴い、担当者変更(28)
						後任なし			「English Communication Elementary I・II」はKerry-Kay Mccatty講師が増コマで対応するため、授業開講数は変更なし。(28)
兼任	講師	ジョボック ボリック J. Bolick	平成25年4月	Professional English Intermediate I Professional English Intermediate II					
兼任	講師	カイスマ タダシ 開沼 正	平成25年4月	歴史※					
兼任	講師	ニシダ サトシ 西田 哲史	平成25年4月	歴史	兼任 准教授	ニシダ サトシ 西田 哲史	平成25年4月	歴史	平成26年4月 准教授に昇任(26)
兼任	講師	カンザカ イズミ 勘坂 泉	平成25年4月	English Communication Elementary I English Communication Elementary II					
兼任	講師	ゲアフレ- ハンスフォード V. Hansford	平成25年4月	English Communication Elementary I English Communication Elementary II	兼任 講師	ケリー マカティ Kerry-Kay Mccatty	平成28年4月	English Communication Elementary I English Communication Elementary II	Hansford講師の授業負担軽減に伴い、担当者変更(28)
兼任	講師	コイケ ソウ 小池 惣	平成25年4月	英語B I 英語B II	兼任 講師	ジェイミー バードン J. Purdon	平成25年4月	英語B I 英語B II	小池講師の退任に伴う変更。(27)
兼任	講師	トミオカ ヒロコ 富岡 比呂子	平成25年4月	共通基礎演習	兼任 講師	リ ハイ 李 佩	平成27年4月	共通基礎演習	富岡講師の担当辞退に伴う担当者の変更。(27)
兼任	講師	モチヅキ コウゾウ 望月 光三	平成25年4月	数理科学	兼任 講師	モチヅキ コウゾウ 望月 光三	平成25年4月	数理科学	スーパーグローバル大学創成支援事業により「数理科学」の英語クラスを増設したことによる教員の追加(27)
					兼任 講師	スズキ マサアキ 鈴木 正明	平成27年4月	数理科学	
兼任	講師	ミヤモト ツトム 宮本 勉	平成25年4月	プログラミング 情報科学	兼任 教授	モチヅキ マサミツ 望月 雅光	平成27年4月	プログラミング	宮本講師の退任に伴う変更。(27)
					兼任 講師	ナガノ ジュンイチ 長野 純一	平成27年4月	プログラミング	
					兼任 准教授	コウ クニミツ 黄 國光	平成27年4月	情報科学	
					兼任 講師	ミスチ ヨシアキ 水地 良明	平成28年4月	プログラミング	
兼任	講師	フクムロ ミツヤ 福室 満哉	平成25年4月	経営学					
兼任	講師	デルバート カーン D. Kern	平成25年4月	Test Preparation Intermediate TOEIC I Test Preparation Intermediate TOEIC II	兼任 講師	デルバート カーン D. Kern	平成25年4月	Test Preparation Intermediate TOEIC I Test Preparation Intermediate TOEIC II	年次進行による履修者増加のため、平成26年度よりTest Preparation Intermediate TOEIC I、同IIの開講数を増やし、増加分のクラスを新たに2名の教員で担当。(26)
					兼任 講師	ジェイミー バードン J. Purdon	平成26年4月	Test Preparation Intermediate TOEIC I Test Preparation Intermediate TOEIC II	
					兼任 講師	ジェイ レイモンド シンガー J. Singer	平成26年4月	Test Preparation Intermediate TOEIC I Test Preparation Intermediate TOEIC II	
兼任	講師	コバヤシ マサヒロ 小林 正博	平成25年4月	宗教学 歴史※					
兼任	講師	オオツカ ユキオ 大塚 由紀夫	平成25年4月	音楽					

					兼任	講師	スティーブン モーガン Steven G. Morgan	平成28年4月	音楽	スーパーグローバル大学創成支援事業により「音楽」の英語クラスを増設したことによる教員の追加(28)
兼任	講師	オグラ ユウジ 小倉 裕児	平成25年4月	歴史※	兼任	教授	オグラ ユウジ 小倉 裕児	平成25年4月	歴史※	平成25年4月 本学の専任教授に就任 (25)
兼任	講師	アベ ショウキチ 阿部 昇吉	平成25年4月	文学						
兼任	講師	イケダ カズコ 池田 和子	平成25年4月	英語B I 英語B II						
兼任	講師	カンダ アキノブ 神田 明延	平成25年4月	英語C						
兼任	講師	カンダ レイコ 神田 玲子	平成25年4月	英語C						
兼任	講師	タイラ スナオ 平良 直	平成25年4月	宗教学						
兼任	講師	フカオ カツシ 深尾 勝利	平成25年4月	英語B I 英語B II						
兼任	講師	カドカワ カズオ 門川 和男	平成25年4月	数理科学	兼任	講師	ノヰキーカヲ 野崎 華世	平成25年4月	数理科学	兼任の門川講師の退任に伴う担当者の変更 (25)
					兼任	講師	アベ リュウイチ 阿部 隆一	平成25年4月	数理科学	平成26年3月 野崎講師退任のため、平成26年度より兼任の阿部講師の担当コマ数増加で対応。(26)
					兼任	講師	カドカワ カズオ 門川 和男	平成27年4月	数理科学	平成27年4月 門川講師の兼任復活により、平成27年より再び「数理科学」を担当。(27)
					兼任	講師	ウスダ ユキオ 臼田 幸生	平成28年4月	数理科学	平成28年4月 門川講師退任のため、担当者変更(28)
兼任	講師	ハザマ トシユキ 狭間 敏行	平成25年4月	英語A I 英語A II						
兼任	講師	カサガ ジュンイチ 春日 潤一	平成25年4月	倫理学						
兼任	講師	アベ リュウイチ 阿部 隆一	平成25年4月	数理科学						

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(〇〇学部 △△学科)の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成28年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等
 (2) - ① 専任教員数

設置時の計画					現在(報告書提出時)の状況					現在(報告書提出時)の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
6	9	6	6	27	7	9	5	7	28	7	9	5	7	28
(4)	(7)	(5)	(2)	(18)						[1]	[0]	[Δ1]	[1]	[1]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(2) - ② 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢 (歳)	報告書提出時 (上記(A)) の教員のうち、 定年を延長して 採用している教 員数	完成年度時(上 記(B))の教 員のうち、定年 を延長して採用 する教員数
65 歳	2 名	2 名

- (注) ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成28年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1		該当なし					
合計 (A)					後任補充状況の集計 (B)		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
該当なし	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由							
1	助教	松平裕佳	必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	一身上の都合（育児）のため辞任（28）							
			必修	基礎看護学実習Ⅱ	①								
			必修	老年看護援助論Ⅰ	①								
			必修	老年看護援助論Ⅱ	①								
			必修	老年看護学実習	①								
			必修	卒業研究演習	③								
			必修	看護実践統合実習	①								
			必修	卒業論文	③								
			必修	キャリアプランニング基礎	①								
2	教授	村島さい子	必修	成人看護急性期援助論Ⅱ	③	健康上の理由のため前期末で辞任（28）							
			必修	成人看護慢性期援助論Ⅱ	①								
			必修	成人看護学慢性期実習	②								
			必修	キャリアプランニング基礎	①								
			必修	看護管理論	①								
			必修	卒業研究演習	③								
			必修	看護実践統合実習	③								
			必修	卒業論文	③								
			必修	看護専門職論	②								
合計 (C)					後任補充状況の集計 (D)								
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)						
2	人	必修	18	科目	必修	10	科目	必修	2	科目	必修	6	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	18	科目	計	10	科目	計	2	科目	計	6	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した**全ての専任教員**の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。

- また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記（３）－① ・ （３）－② の合計

合計（Ａ）＋（Ｃ）			後任補充状況の集計（Ｂ）＋（Ｄ）					
辞任等した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
2 人	必修	18 科目	必修	10 科目	必修	2 科目	必修	6 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	18 科目	計	10 科目	計	2 科目	計	6 科目

（注） ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

（４） 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

松平助教の辞任は、ご家庭の事情による引越しのため居住地が大学から離れ、さらに育児との両立が難しい状況となったゆえのやむをえない事由によるものであった。これについては、平成28年1月の教員審査を経て同領域の助教1名を採用したので、教育活動に支障をきたすことなく設置計画を履行することができている。

村島教授に関しては、65歳定年を延長して勤務いただいているが、健康上の理由から平成28年8月で辞任したいとの申し出があったため、無理に引き止めることはできないと判断せざるを得なかった。

学生への周知については、いずれも、学部長から、授業やガイダンス等で、丁寧に説明を行っている。特に「卒業研究演習」と「卒業論文」については、学生から配属希望を聞いたうえで決めることになっているが、募集段階で両教員の辞任がはっきりしていたので、混乱を生じることはなかった。「卒業研究演習」、「卒業論文」共に、両者の辞任後も1学年80名の学生定員に対し23名の担当者がいるので、まったく支障はないと考えている。

なお、村島教授担当の「成人看護慢性期援助論Ⅱ」、「キャリアプランニング基礎」、「看護管理論」の3科目は、前期配当科目のため、平成28年度は同教授が予定通り担当している。また、後期配当のオムニバス形式の「看護専門職論」は同教授了承のもと、同教授が兼任講師として担当いただくことになった。その上で、同教授の後任については、平成28年7月の教員審査を経て平成28年9月採用で専任教員の公募を行ったが、適任者がいなかったため、引き続き専任教員の募集中である。そのため、「成人看護学慢性期実習」については兼任教員を採用して実習担当者に充てることとし、人選は終わっている。「成人看護急性期援助論Ⅱ」については、実習指導との連動を重視した担当者の調整を行ったため、同教授の辞任に関わらず後任は充当しないが、調整後も5名の担当者がいるため、支障はないと考えている。「看護実践統合実習」についても35名（兼任2名を含む）の担当者がいるので、これも支障はないと考えている。

（注） ・ 上記（３）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成25年4月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成26年2月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成27年2月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成28年2月)	該当なし		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 実習先の確保状況 「基礎看護学実習Ⅱ」 八王子市内及び周辺の10病院で行う。 「老年看護学実習」 八王子市内の介護老人保健施設2施設と医療型療養病床を有する2病院で行う。 「小児看護学実習」 八王子市と横浜市の2病院と、八王子市と町田市の9保育園で行う。 「地域在宅看護学実習」 八王子市内の訪問看護ステーション5ヶ所と地域包括支援センター12ヶ所で行う。</p> <p>② 企業実習や海外語学研修など学外実習を実施する場合は、その具体的計画 【研修計画】 研修施設名：フィリピン共和国 キャピトル大学</p>	<p>① より充実かつ円滑に実習を実施するため、実習先を追加した。 新たな実習先の榊原記念病院では「基礎看護学実習Ⅱ」及び「小児看護学実習」を、同じく横浜市立市民病院では「小児看護学実習」が、実施できる体制になった。 また、「地域在宅看護学実習」では、東京都立神経病院のほか、八王子市内の地域包括支援センター3ヶ所、さらに八王子市および近隣市の訪問看護ステーション2施設を追加、確保することができた。「小児看護学実習」では2保育園の追加、「老年看護学実習」では介護老人保健施設1ヶ所を追加、「看護実践統合実習」でも特別養護老人ホームを1ヶ所追加することができた。 今後も実習先との連携を密にしつつ、円滑な実習運営のために努めてまいりたい。</p> <p>② 到達目標の一つである「グローバルな視点から人々の健康問題を理解し、国際社会の中で他者と協同することのできる能力を身につける」に、より多角的、多面的な観点からアプローチするため、海外研修先を拡充した。 一つ目は、先進的な看護並びに保健医療を学習する機会として、アメリカ合衆国カリフォルニア大学サンフランシスコ校を、二つ目は、最も身近な異文化への理解を深める機会として、大韓民国仁済大学である。既実施国であるフィリピン共和国においても、キャピトル大学に加え、フィリピン大学マニラ校を研修先に加え、より重層的な研修体制を整えることができた。それぞれの協定校からは、客員教員を招へいし、相互理解の機会を設けている。引き続き、これらの協定校と連携しつつ、充実した研修を実施していきたい。</p>

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制 ※特に記載がある場合を除き、平成27年度の内容を記載している</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>ア) 創価大学ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下、「全学FD委員会」という。関係規程添付）</p> <p>イ) 看護学部FD委員会（専任教員11名と助手1名の計12名で構成）</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>ア) 全学FD委員会</p> <p>平成25年度：3回 平成26年度：3回 平成27年度：3回（看護学部出席者：各回1名） 全学部長を始めとする16～17名の教職員で構成されている</p> <p>イ) 看護学部FD委員会</p> <p>各セメスター2回開催され、年間4回であった。 分科会については、FDグループは4回、APグループは3回開催した。</p>

いずれの会議も、構成員の教員が参加している。

c 委員会の審議事項等

ア) 全学FD委員会

- ・授業の内容及び改善の方策に関する事項
- ・研修会及び講習会の開催に関する事項
- ・学生による授業評価の実施、結果の分析及び利用に関する事項 等

イ) 看護学部FD委員会

(FDグループ)

- ①FD活動の企画・実施・評価
- ②教員および各専門領域からのFD予算執行に対する要望の聴取・検討
- ③全学FD委員会からの諮問事項
- ④学部内開催のFD活動に関する全学FD委員会への報告
- ⑤FD委員会内規の検討
- ⑥全学FDセミナー・講演会等への教員の参加促進
- ⑦その他、FD活動の推進に必要と認められる事項

(APグループ)

平成26年度に本学が採択された「大学教育再生加速プログラム」において、平成27年度は、本学部がパイロット学部になっていたため、それらの事業への参画を通じて、教育方法の改善等に取り組むことができた。

- ①アセスメント科目の設定
- ②アセスメントツールの確定
- ③ALマスター研修の実施
- ④評価項目の設定（看護学部）
- ⑤AP研修の参加推進（9月、3月）
- ⑥看護学部AP推進及び啓発
- ⑦看護学部AP事業説明会の開催

② 実施状況 ※特に記載がある場合を除き、平成27年度の内容を記載している

a 実施内容

ア) 全学FD委員会

- ・全学的FDの取組目標の立案・取り組み・結果及び効果の分析
- ・教授法等に係るFDセミナー（年7～8回）及びFDフォーラム（年1回）
- ・新任教員研修（年3回）
- ・コンソーシアムや大学間連携による他大学との連携事業

イ) 看護学部FD委員会

- ・第2回看護教育学習会（9月）
- ・第1回看護学部AP研修（2日間）（9月）
- ・看護学部AP事業説明会（1月）
- ・臨地実習指導者研修会（3月）
- ・第2回看護学部AP研修（2日間）（3月）
- ・日本私立看護系大学協会総会講演会（7月）
- ・FDのための情報技術研究講習会（2月）

b 実施方法

ア) 全学FD委員会

FD委員会にて協議・検討した計画に基づき、教育・学習支援センター（GETL）等の関連部門がFDに係るセミナー・研修等を運営する。

イ) 看護学部FD委員会

看護学部FD委員会では2つのワーキンググループを形成し、ワーキンググループから活動企画案が委員会会議に提案され審議を経て、実施を行なった。全学FD委員会に活動計画および費用について諮り、FD活動と承認を得たものについては学部FD予算を使用した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

ア) 全学FD委員会

FDセミナー(年7~8回)・FDフォーラム(年1回)・新任教員研修(年3回)等を定期開催し、教員1人につき年間平均約2.9回参加している。

イ) 看護学部FD委員会

- ・第2回看護教育学習会を行い、グループ討議形式で、各領域の実習概要と看護過程の教授内容について共有した。(9月)36名中28名参加、参加率78%
- ・第1回看護学部AP研修(2日間)を行い、授業設計の方法や学生主体の能動的学習方法の展開などについて、相互に学んだ。(9月)36名中11名参加、参加率31%
- ・看護学部AP事業説明会を開催し、アクティブラーニングを活用した授業、授業外学修時間の増加へ向けた取り組みについて討議した。(1月)36名中20名参加、参加率56%
- ・臨地実習指導者研修会を開催し、外部講師による講演ならびに実習指導者と教員とのグループワークを通して、「学生の可能性を信じ抜き、限らない能力を共に引き出す実習指導」について学びを深めた。講師料および交通費については全学FD委員会にFD活動として申請し承認された。実習指導者89名参加、教員36名中29名参加、教員参加率81%(3月)
- ・第2回看護学部AP研修(2日間)に参加し、アクティブラーニング推進のための授業設計ワークショップを体験した。(3月)36名中20名参加、参加率56%
- ・日本私立看護系大学協会総会講演会へ1名を派遣した。(7月)
- ・FDのための情報技術研究講習会へ1名を派遣した。(2月)2016年度に情報交換会を予定している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

ア) 全学FD委員会

- ・研修会やセミナーを通じ、ラーニング・アウトカムズの達成点検・到達目標の測定を意識した授業展開が促進され、LTD等、ALの定着化が進展している。

イ) 看護学部FD委員会

第2回看護教育学習会では3年次の専門分野Ⅱ実習指導の経験を踏まえて、基礎看護学実習からの学生の成長と実習指導のあり方を、討論したことで、今後の実習指導に生かす手ごたえを得た。またさらに、臨地実習指導者研修会において、実習指導について臨床の実習指導者と意見交換ができ、次年度の実習指導に取り入れる視点を獲得することができた。看護学部AP事業説明会において、アクティブラーニング手法を用いた授業改善の見通しを共有し、2回にわたるAP研修において、各自が授業シラバスを元に、到達目標の見直しおよび授業の進め方の改善に取り組むことが出来た。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

有(各セメスター終了時に、原則、全科目(一部、除外科目あり)で実施)

b 教員や学生への公開状況、方法等

各科目のアンケート結果は、Web上の各科目のシラバス閲覧ページで学内限定で公開されている。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置の趣旨・目的に掲げた諸項目は、その内容を堅持しながら達成することができている。

中でも、本学部の特色として掲げた、「グローバルマインドを育む看護教育」においては、当初フィリピンのみで実施を予定していた国際看護研修を、アメリカ、韓国でも実施することができた。国際看護研修の参加者数は129人となり、2~4年次生の約50%が海外研修に参加したことになる。また、協定校から9名の客員教員を招へいし、講義でのゲストスピーカー、講演会や交流会を開催するなどして、海外研修に参加できなかった学生に対しても、グローバルマインドを育む一助とすることができた。こうした取組みを通じて、将来の進路に海外留学や国際的な医療協力事業を視野に入れる学生ができていく。

また、「ICT活用に精通した看護師養成」においては、入学生全員にノートパソコンを4年間貸与しているため、学生は授業はもとより、普段の日常生活の中で利用している。授業科目の「コンピュータ・リテラシー」は必修である。これにより、ICT活用技術のみならず、個人情報の保全といった情報リテラシーの修得に役立てることができている。

さらに、「地域の看護水準向上に寄与する拠点形成」においては、実習施設関係者への図書館開放、臨床看護師の研究支援、地域の看護職者を対象とした公開講座の開催など、着実に地域との相互協力関係を構築することができている。

なお、「看護師養成に徹した学士課程教育プログラム」においては、完成年度となる今年度、初めての、看護実践能力のアセスメントを行う予定にしている。

学生指導の面では、GPAによる学業指導とアドバイザー制が十分機能しており、学生個々の学習上、生活上の課題を早期に把握し、それぞれの状況に合わせた適切な対応ができていく。

学生募集については、志願倍率が、平成25年度3.5倍、平成26年度5.6倍、平成27年度6.6倍、平成28年度6.3倍と、順調に推移している。総定員充足率も1.05倍であり、定員管理も十分機能している。

完成年度となる今年度は初の卒業生を輩出するが、設置計画の確実な履行により、時代・社会の要請に応えてまいりたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成28年4月18日 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開（平成28年4月）

③ 認証評価を受ける計画

・平成26年度に評価機関（大学基準協会）の評価の結果、適合の認定を受けた。

・平成33年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受ける予定である。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（4） 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成28年5月31日予定)